

北前船が運んだ京のみやび

尾花沢雅楽

■尾花沢にお正月を告げる^{おごそ}厳かな^{ねいろ}音色

新年になり、尾花沢の人々が初詣に市内本町にある諏訪神社へ出かけると、古風な音色を耳にすることになります。尾花沢雅楽^{すわががく}の音色です。

お正月を迎える尾花沢にとって、尾花沢雅楽の音色はかかせないものとなっています。

この尾花沢雅楽が始まったのは、江戸時代からとされています。「雅楽」自体は、京都のようですが、それを学んだ尾花沢の商人によって、尾花沢まで伝えられました。

■尾花沢に伝えられた京文化

尾花沢の雅楽がいつ頃から始まったかは、正確な年代はわかりません。現在尾花沢に残されている古文書によると、すくなくとも江戸時代の寛政^{かんせい}年間には、はじめられていたと考えられます。鈴木清風家の分家にあたる鈴木久左衛門^{きゆうざゑもん}を通して、念通寺^{ねんつうじ}に雅楽が伝承され「念通寺雅楽」として、代々維持されました。その後近代になって、一時^{はいぜつ}廃絶の危機にさらされましたが、尾花沢雅楽保存会が発足されるなどして、伝承され今に至っています。

なお、尾花沢雅楽は市指定の無形民俗文化財です



▲一月一日、諏訪神社の歳旦祭で演奏される尾花沢雅楽(「市報 おばなざわ」より)

パーカッション 〜リズムをつかさどる打楽器の面々

▼正式には、「鈞太鼓」(つりだいこ)と言います。
木製の芯に革を巻いたばちで打ち鳴らします。



▲2本のばちを両手に持って打ち鳴らされます。
演奏の速度を決めたり、演奏の終わりを合図したりと、「指揮者」のような役割を担っています。

▼雅楽で唯一の金属製楽器です。
棒の先に丸い水牛の角がついたばちで鳴らされます。



雅楽の楽器

雅楽は日本のオーケストラ!?



▲竹製の管楽器です。雅楽の主旋律を担当します。
音域が1オクターブほどしかないので、吹き方を工夫して奏でる音を色々と変えて演奏されます。

▼17本の竹管からできており、音を出す原理はハーモニカと同じです。
和音を奏で、おもにハーモニーの部分を担当します。



▲竹製で、7つの穴が開いています。
篳篥よりも出すことのできる音域が広く、旋律に彩りを添えたり、篳篥とユニゾンで演奏されたりします。

ホーンセクション 〜メロディーをつくる管楽器の面々

一般的な雅楽は、三管(さんかん)、三鼓(さんこ)、両弦(りょうげん)の8種類を中心にして演奏されます。尾花沢雅楽の場合、このうちの両弦は使用されず、打楽器と管楽器の6種類の楽器によって構成されています。

尾花沢雅楽の起源とされる「雅楽譜面(篳篥伝授書)」(市指定文化財)は市内旧家に代々伝承されています。
雅楽譜面の伝授は江戸時代、宮廷雅楽副長官の安倍季康およびその子孫が与えたとされています。